

3

ハードウェアについて

本章ではパソコン本体の機能や周辺機器、増設メモリなどを取り付ける方法について説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	キーボード	50
2	CD-ROM ドライブ／CD-R/RW ドライブ ...	54
3	PC カード	58
4	i.LINK (IEEE1394) 対応機器の接続	64
5	機器の拡張を行うときは	67
6	本体カバーの取りはずし／取り付け	69
7	増設メモリ	72

1 キーボード

本装置のキーボードは 109A キーボードまたはテンキー付き小型キーボードです。

*ご購入のモデルによって異なります。

109A キーボード

109A キーボードは、106 日本語 (A01) キーボード (Ctrl+ 英数) に Windows をより便利に使う Win (ウィンドウズ) キー、アプリケーションキーを追加したキーボードです。

F (ファンクション) キー (F1~F12)

各アプリケーションソフトにより、いろいろな機能が割り当てられます。

Esc (エスケープ) キー

操作の取り消しなどに使用します。

Tab (タブ) キー

項目を移動するときなどに使用します。

Alt (オルト) キー

他のキーと組み合わせて使用します (アプリケーションごとに機能が異なります)。

Win (ウィンドウズ) キー

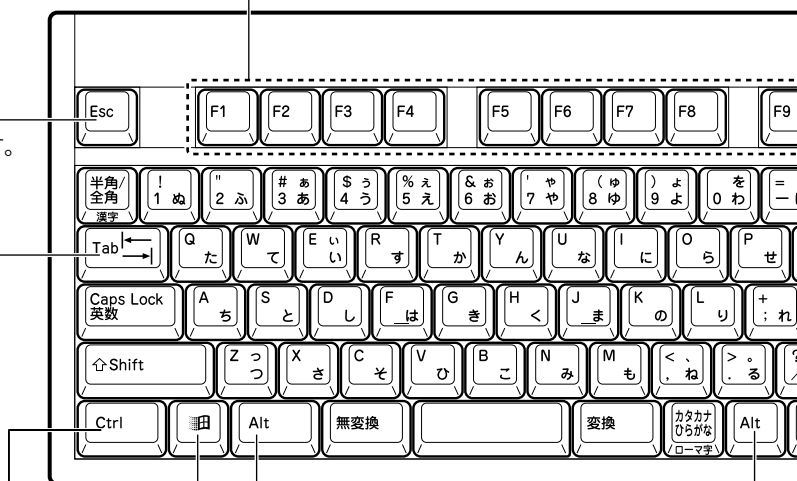
他のキーとの組み合わせで、ショートカットとして使用できます。

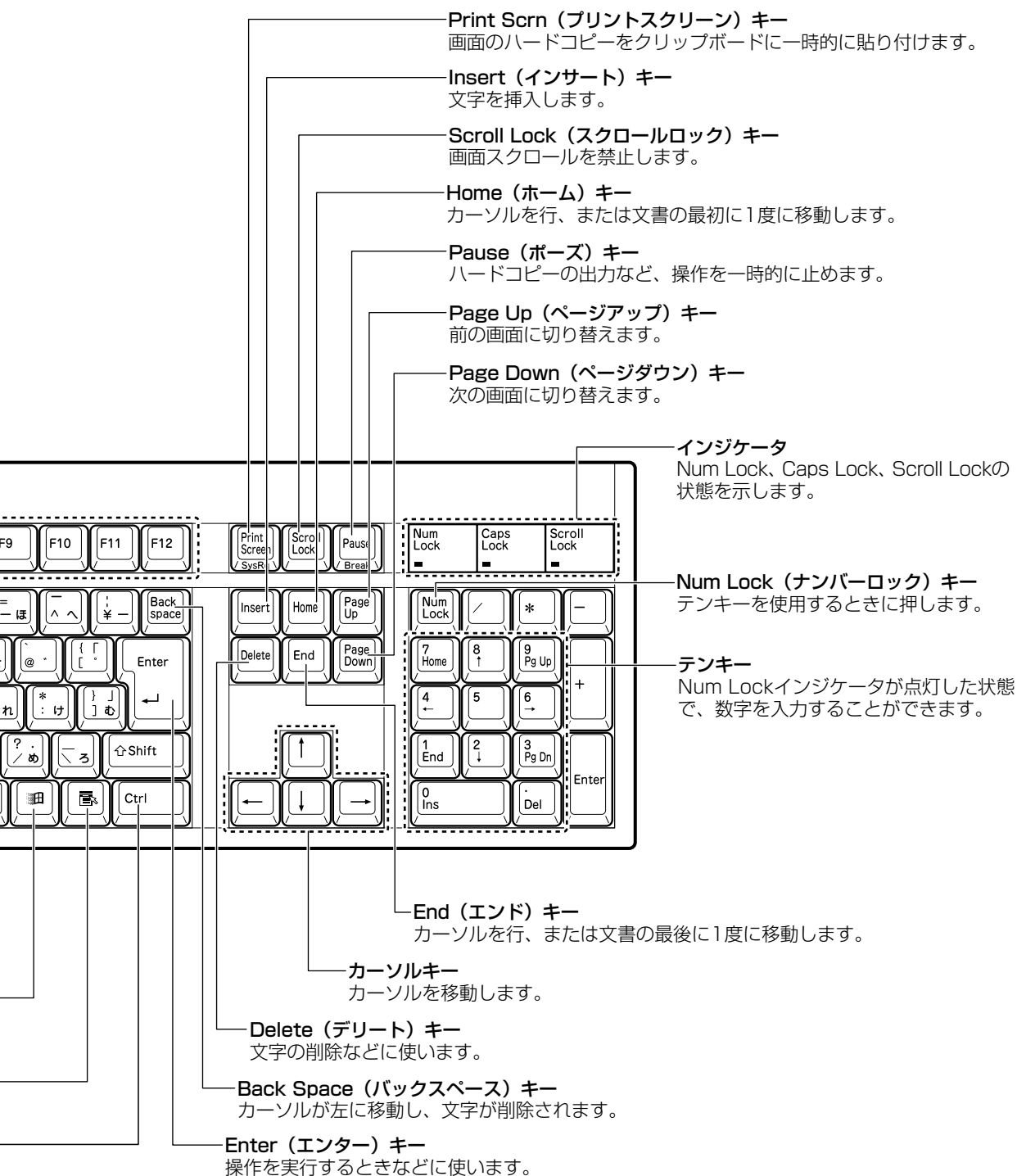
アプリケーションキー

マウスの右ボタンをクリックすることと同様に動作します。

Ctrl (コントロール) キー

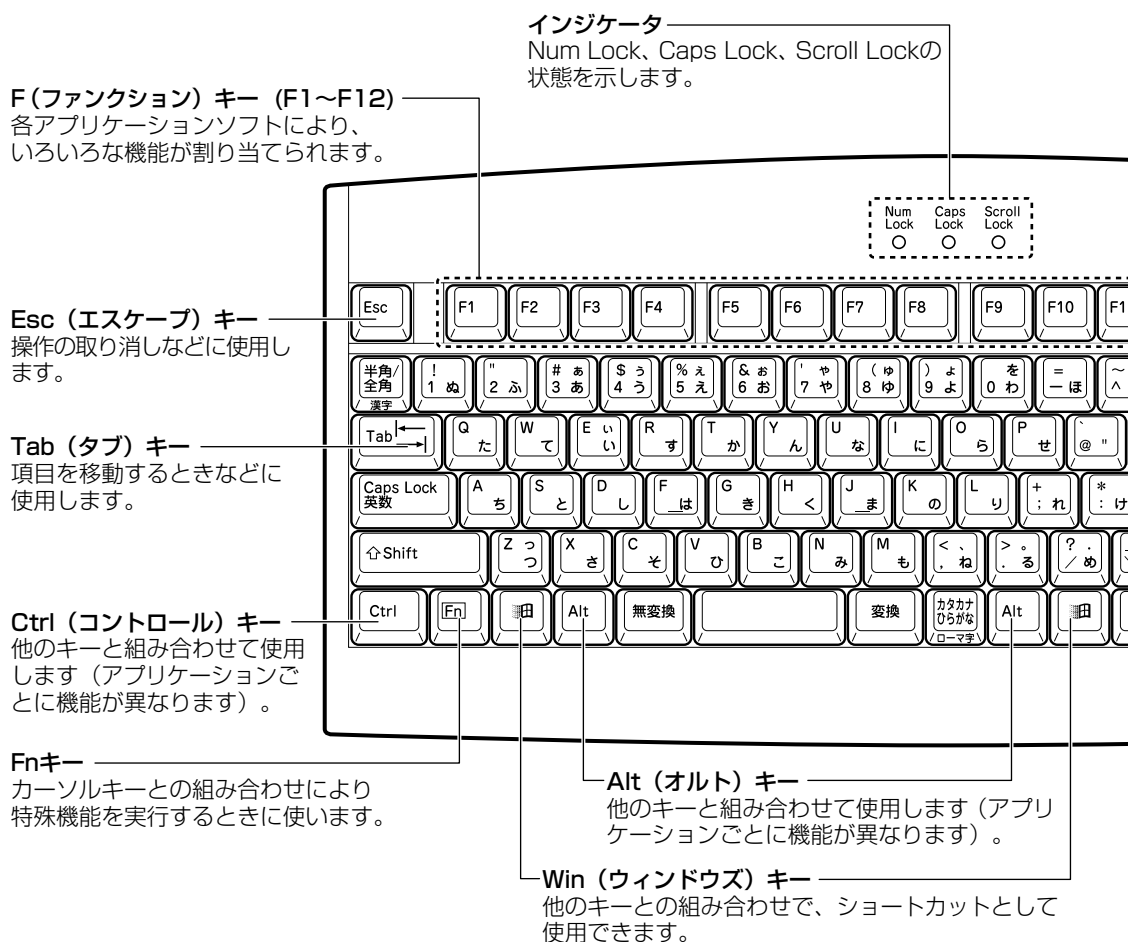
他のキーと組み合わせて使用します (アプリケーションごとに機能が異なります)。





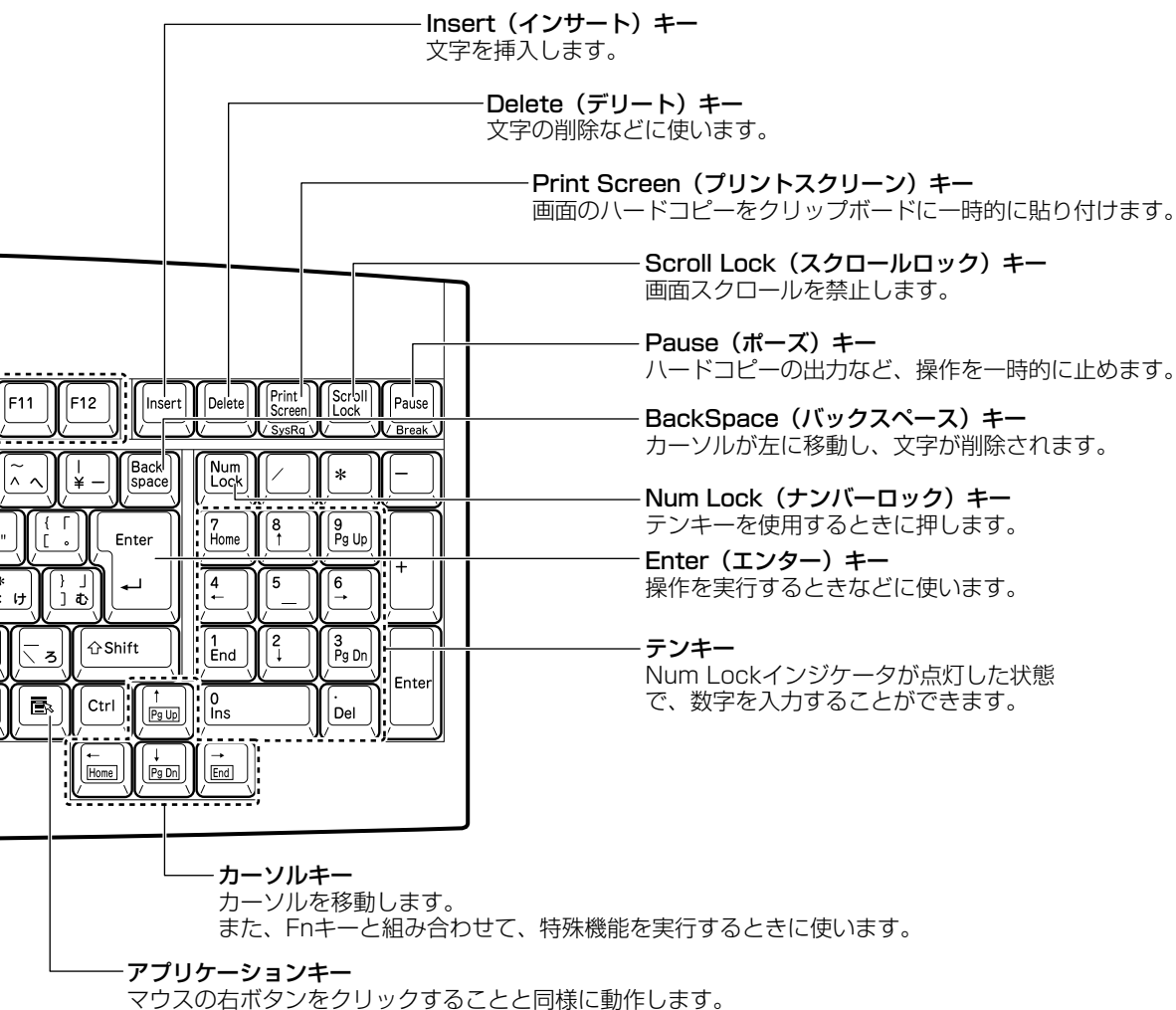
● テンキー付き小型キーボード

テンキー付き小型キーボードは、106日本語（A01）キーボード（Ctrl+英数）にWindowsをより便利に使うWin（ウィンドウズ）キー、アプリケーションキーを追加したキーボードです。



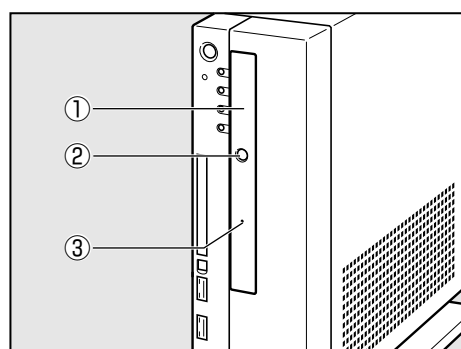
● Fn キーを使った特殊機能キー

キー	内容
[Fn] + [PgUp]	前の画面に切り替えます。
[Fn] + [PgDn]	次の画面に切り替えます。
[Fn] + [Home]	カーソルを表、または文書の最初に1度に移動します。
[Fn] + [End]	カーソルを行、または文書の最後に1度に移動します。



*内蔵されているドライブの種類は、ご購入のモデルによって異なります。

ドライブ部分拡大図（本体正面）



① ディスクトレイ

CD をセットする部分です。ディスクのセットや取り出しは、イジェクトボタンで行います。

② イジェクトボタン

ディスクのセットや取り出しのときに押します。

③ イジェクトホール

ディスクを強制的に出すときに使用します。通常は使用しません。



お願い

- ・ CD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- ・ CD アクセスランプ  が点灯中は、イジェクトボタンは押さないでください。故障の原因となる場合があります。
- ・ CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブを使用しないときは、必ず CD を取り出しておいてください。
- ・ 外側を切り欠いた CD など正常な円形ではない CD や、変形した CD、かたよった位置にラベルを貼った CD は使用しないでください。異常振動の発生や故障の原因となります。
- ・ 市販のレンズクリーナは使用しないでください。CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブの故障の原因となります。

● 使用できる CD

読み込みできる CD は次の種類です。

① 音楽用 CD

8cm、12cm の音楽用 CD が聴けます。

② フォト CD

③ CD-ROM

使用するシステムに適合する ISO9660 フォーマットのもの

④ CD エクストラ

⑤ CD-R

⑥ CD-RW



メモ

- ・ ISO9660 フォーマットとは、パソコンのシステム（OS）や機種が異なっても共通に利用することができる CD-ROM のフォーマットであり、ISO（国際標準化機構）が 1988 年に決めました。
- ・ CD の特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

また、CD-R/RW モデルで書き込みできる CD は、次の種類です。

① CD-R（書き込みは 1 回限り）

② CD-RW

● CDのセットと取り出し



注意

- ・電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。CDのデータやCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブが壊れるおそれがあります。
- ・長時間CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを使用した直後にCDを取り出す場合は、ディスクトレイの金属部分に触れないでください。ディスクトレイの金属部分が熱くなっている場合があります。

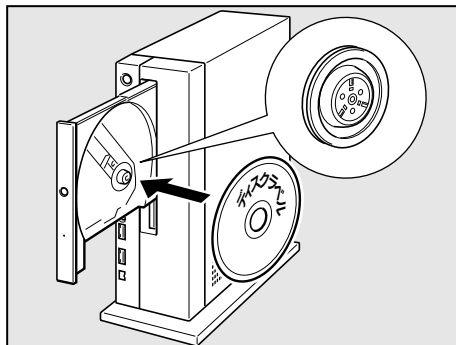


お願い

- ・CDのセットと取り出しは、電源ON時に行ってください。電源OFF時にイジェクトボタンを押しても、ディスクトレイの出し入れはできません。また、イジェクトボタンは、CDアクセスランプ  が消灯している状態で押してください。故障などで電源が入らない場合は、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのイジェクトホールを先の細い、丈夫なもの（例えばクリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。

● CDのセット

- 1** CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが出てきます。
- 2** ディスクトレイを引き出す
CDをのせる面がすべて出るまで引き出します。
- 3** CDディスクラベルを手前にして、穴の部分をディスクトレイ中央部分に合わせ、セットする
CDをセットするときは、ディスクトレイを強く押しすぎないでください。
- 4** ディスクトレイを押し戻す



● CDの取り出し

- 1** CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが出てきます。
- 2** ディスクトレイを引き出す
CDをのせる面がすべて出るまで、引き出します。
- 3** CDの両端をそっと持ち、手前に引いて取り出す
- 4** ディスクトレイを押し戻す

● CD-R、CD-RW に書き込む

CD-R/RW モデルの場合、CD-R、CD-RW にデータを書き込むことができます。

書き込みを行うためのアプリケーションとして、「DirectCD」「Easy CD Creator」をご用意しています。

ご使用の際はインストールしてください。インストールについては「Easy CD Creator」の CD-ROM をセットし、表示された画面に従ってください。

CD-R、CD-RW に書き込みを行うときは、次のご注意をよくお読みのうえご使用ください。

守らずにご使用になると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ご使用のパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。

本製品に搭載している CD-R/RW ドライブには書き込みエラーを防ぐバッファアンダーランエラー防止機能を内蔵していますが、電源切断やドライブへのショックなどの本体異常や、記録メディアの状態によっては、処理が正常に行えず、エラーとなる場合があります。

書き込みに失敗した CD-R の損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD-R、CD-RW に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



・ CD-R に書き込みできるのは 1 回限りです。書き込みに失敗した CD-R は再利用できません。
なお、CD-RW はフォーマットすると再利用できます。

● 書き込む前に

- CD-R は CD-R/RW ドライブの書き込み速度に対応しているものをご使用ください。本製品では、次のメーカーの CD-R の動作確認を行っています。

太陽誘電 (株)、三井化学 (株)、三菱化学 (株)、リコー (株)、
日立マクセル (株)、富士写真フイルム (株)、ソニー (株)

上記以外のメーカーの CD-R をご使用になると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-RW には 2 倍速対応、1 倍速～4 倍速対応、そして 4 倍速～10 倍速対応の High Speed CD-RW があります。メディアの対応速度に合わせた速度で書き込みを行ってください。

本装置では、次のメーカーの CD-RW の動作確認を行っています。

CD-RW : 三菱化学 (株)、リコー (株)

High Speed CD-RW : 三菱化学 (株)、リコー (株)

上記以外のメーカーの CD-RW をご使用になると、うまく書き込みができない場合があります。

- 「DirectCD」「Easy CD Creator」以外の CD-R、CD-RW 書き込み用ソフトウェアは動作保証しておりません。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。

🔋 省電力機能について ⇨ 「2 章 3 省電力機能について」

- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
- スクリーンセーバなどCPUに負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- ウィルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことをおすすめします。
- LANを経由しての書き込みは行わないでください。LANを経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクドライブに保存してから書き込みを行ってください。
- 本製品のハードディスクドライブ以外にあるデータの書き込みは行わないでください。USB接続のハードディスクドライブ等の周辺機器にあるデータは、いったん本製品のハードディスクドライブに保存してから書き込みを行ってください。

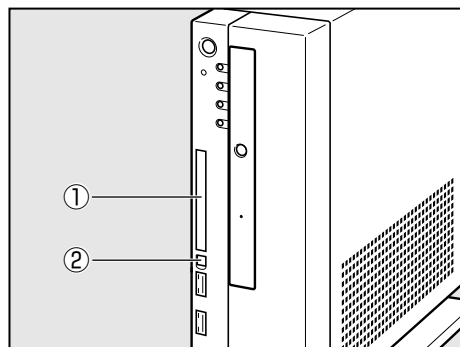
● 書き込み／削除を行うときは

- マウスを動かす、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、必ずデータ書き込み終了後に、データが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 「Easy CD Creator」の「data CD project」（データCDプロジェクト）で、重要なデータを書き込む場合は、メニューバーから［ファイル］ - ［CDプロジェクトプロパティ］をクリックし、［全般］タブで［書き込み後CD上のファイルを検証する］をチェックしてください。
正常に書き込まれていることを確認できます。

3 PC カード

本装置には、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応（CardBus 対応含む）PC カード（別売り）を取り付けることができます。

部分拡大図（本体正面）



① PC カードスロット

PC カードを挿入します。

ご購入時はダミーカードが挿入されています。PC カードを使用しない場合は、ダミーカードを挿入しておきます。

② イジェクトボタン

PC カードの取り付け／取りはずしを行うときに押します。

● PC カードを使用する前に

- 使用できる PC カードのタイプは、TYPE II です。

PC カードの例を次にあげます。

- ・ SCSI アダプタカード
- ・ スマートメディアアダプタカード
- ・ フラッシュメモ리카ード
- ・ CardBus 対応カード

📖 詳細について ⇄ 「PC カードに付属の説明書」

- PC Card Standard に準拠していない PC カードは使用できません。故障や不具合が発生するおそれがあります。
- 本装置は ZV ポートには対応していません。
- PC カードを使用しないときは、PC カードスロットにダミーカードを差し込んでおいてください。何も挿入されていないと、中にゴミやホコリが入り、故障の原因となることがあります。
- PC カードにはシールを貼らないでください。シールが貼られていると、カードの取り付けや取りはずしが正常にできない場合があります。また、故障の原因となることがあります。

**注意**

- ・ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
電源を入れたまま作業を行うと、PCカードが故障するおそれがあります。
- ・PCカード使用中は、省電力機能を使用しないでください。スタンバイモード／休止状態への移行、通常モードへの復帰が正常に行えない場合があります。
- ・システム起動時にPCカードスロットにPCカードを挿入している場合、PCカードを認識しなかったり、起動に時間がかかることがあります。PCカードを認識しない場合は、PCカードのイジェクトボタンを押し、PCカードを取り出した後、もう1度挿入し直してください。
- ・スタンバイモード／休止状態の時にPCカードの抜き差しを行わないでください。
- ・スタンバイモード／休止状態からの復帰後にPCカードを正常に認識しない場合があります。
- ・PCカードを取りはずす際は、PCカードを使用停止状態にしてください。
使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。



お願い

- ・取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。



メモ

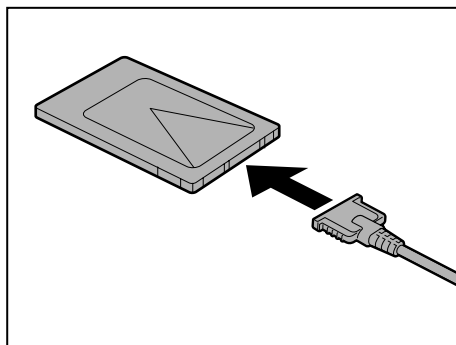
- ・市販されているPCカードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。
- ・**ホットインサージョン**
パソコン本体の電源を入れたままで、PCカードの取り付け／取りはずしをすることをいいます。ただし、PCカードによってはこの機能に対応していない場合があります。
- ・PCカード接続のハードディスクドライブやCD-ROMドライブなどの動作中に、通信またはサウンド再生を行った場合、次の現象が発生することがあります。
 - ・通信回線の速度が遅くなる
 - ・通信回線が切断される
 - ・サウンド再生時に音飛びが発生する

● 取り付け

- 1 ホットインサクションに対応していないPCカードを取り付ける場合は、パソコン本体の電源を切る

- 2 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルを接続する必要があるカードの場合は、この作業を行ってください。

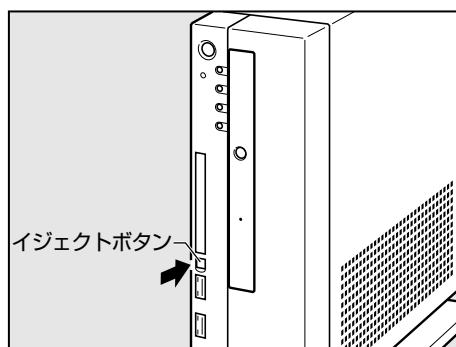


お願い

・ケーブルを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

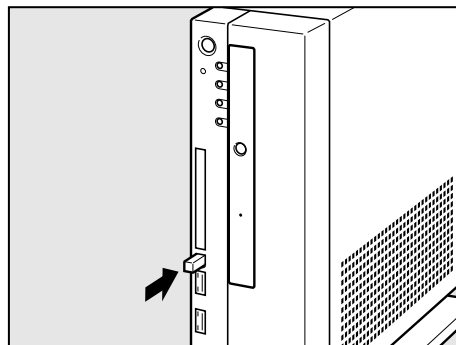
- 3 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。



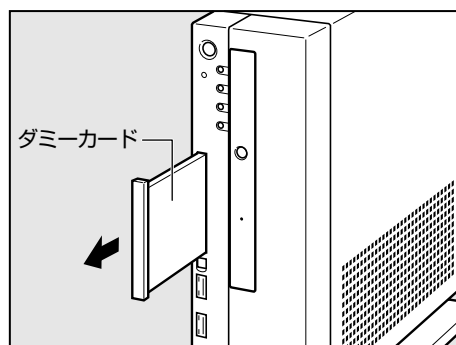
- 4 もう1度イジェクトボタンを押す

ダミーカードが少し出てきます。



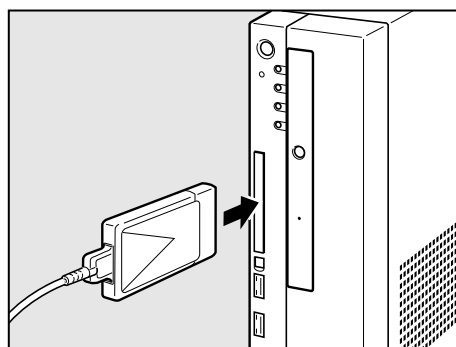
5 ダミーカードを抜く

ダミーカードはなくさないように、保管してください。



6 PC カードの表面を右側に向け、PC カードを挿入する

カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに静かに押してください。



カードを接続した後、カードを使用できるように設定されているかどうかを確認してください。

📖 カードの表裏および環境の設定方法 ⇄ 『PC カードに付属の説明書』

● 取りはずし



注意

- ・PC カードを取りはずす際は、PC カードを使用停止状態にしてください。使用停止せずに PC カードを取りはずすと、システムが致命的影響を受ける場合があります。
- ・PC カードは、熱を帯びている場合があります。長時間使用した PC カードを取りはずす際は、PC カードの使用を停止後、少し時間をおき、冷めてから取りはずしてください。



お願い

- ・PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから取りはずしを行ってください。

1 PC カードの使用を停止する

Windows 2000 の場合

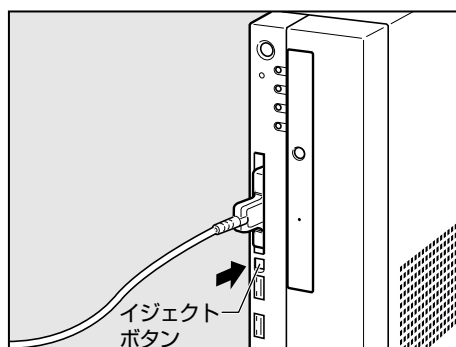
- ① タスクバーにある「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから「XXXX (取りはずす PC カード) を停止します」をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

Windows 98 の場合

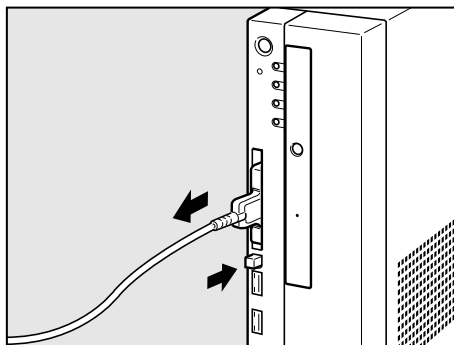
- ① タスクバーにある「ハードウェアの取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから「XXXX (取りはずす PC カード) の停止」をクリックする
- ③ 「取り外しても安全です」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 イジェクトボタンを押す

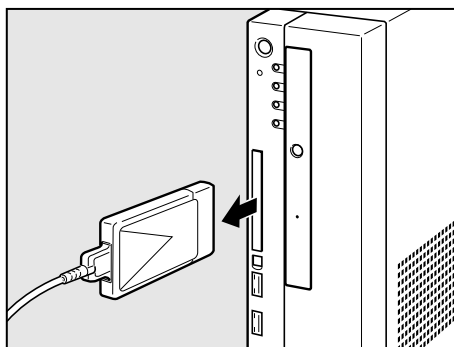
イジェクトボタンが出てきます。



- 3** もう1度イジェクトボタンを押す
カードが少し出てきます。



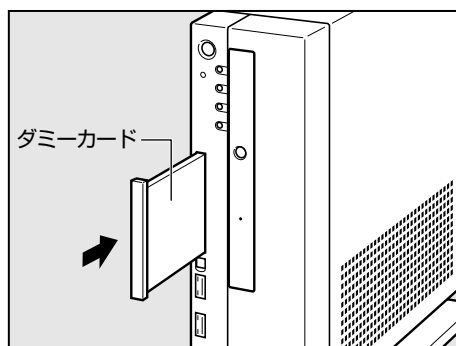
- 4** カードをしっかりとつかみ、引き抜く



お願い

・カードを引き抜くときは、ケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。

- 5** ダミーカードを挿入する



本装置では、i.LINK (IEEE1394) コネクタ（以降、i.LINK コネクタとよびます）に i.LINK (IEEE1394) 対応機器（以降、i.LINK 対応機器とよびます）を接続できます。i.LINK 対応機器には次のようなものがあげられます。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応 CD-R/RW ドライブ など

i.LINK 対応機器のご使用について

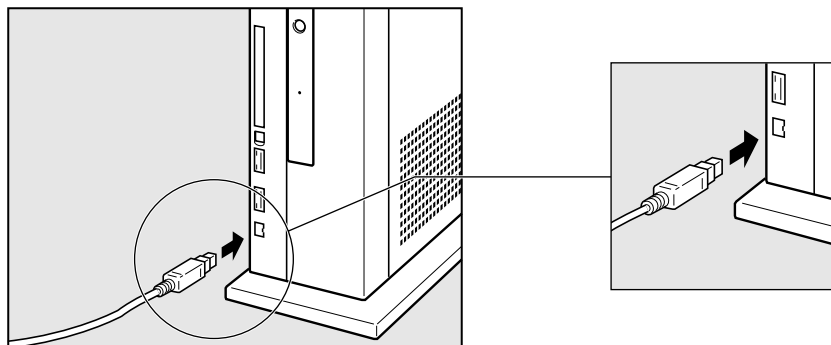
i.LINK 対応機器を使用する場合、次の注意事項を必ず守ってお取り扱いください。

- i.LINK 対応機器を使用しデータ転送を行う場合、必ずデータ（データファイルや、ビデオカメラで撮影したテープ）のバックアップをお取りください。特に動画データ転送時は、パソコンの処理に負担がかかり、状態によってはコマ落ちが発生する場合があります。また、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時にはご注意ください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラ等を使用し、データ通信を行っている最中に他の周辺機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。周辺機器の取り付け／取りはずしはデータ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。

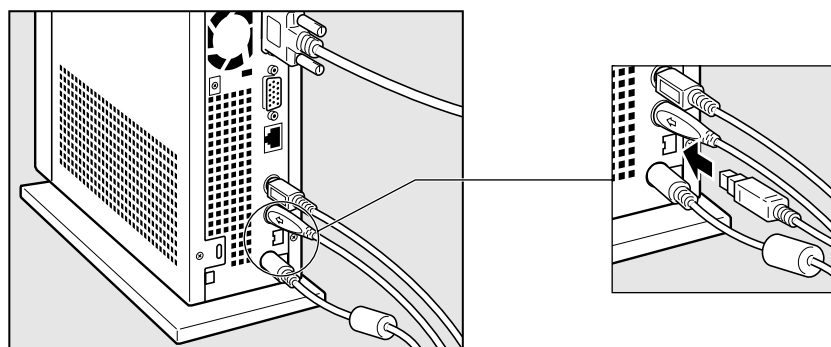
● 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタ  に差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。

本体前面



本体背面



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む



お願い

- ・ i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っておりません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ・ ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）をご使用ください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- ・ 3m 以内の長さのケーブルをご使用ください。
- ・ 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- ・ i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしやパソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- ・ i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

● 取りはずし

● Windows 2000 の場合

- 1 タスクバーの【ハードウェアの取り外しまたは取り出し】アイコン () をクリックする
- 2 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- 3 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを取りはずす
パソコン本体からケーブルを取りはずすときは、i.LINK 対応機器以外の機器のケーブルに気をつけてください。

☞ i.LINK 対応機器からのケーブルの取りはずしについて

⇒ 『i.LINK 対応機器に付属の説明書』



・ i.LINK 対応機器の種類によっては、手順 1 ～ 3 は必要ありません。

メモ

● Windows 98 の場合

- 1 タスクバーにある【ハードウェアの取りはずしシステムトレイ】アイコン () をクリックする
- 2 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- 3 「デバイスをコンピュータから取りはずしても安全です。」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを取りはずす
パソコン本体からケーブルを取りはずすときは、i.LINK 対応機器以外の機器のケーブルに気をつけてください。

☞ i.LINK 対応機器からのケーブルの取りはずしについて

⇒ 『i.LINK 対応機器に付属の説明書』



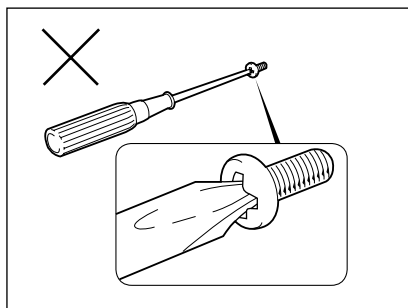
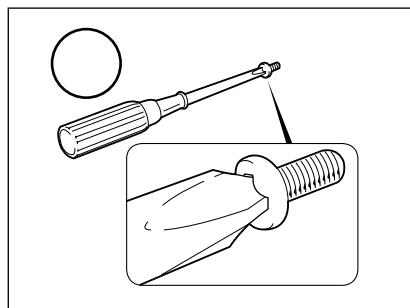
・ i.LINK 対応機器の種類によっては、手順 1 ～ 3 は必要ありません。

メモ

機器の拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のあるかた（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われたかた）を対象としております。システム拡張の経験のないかた、難しいと思われるかたはお買い上げの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

作業前の注意事項

- 湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行ってください。
- 温度範囲は 10 ～ 35℃、湿度範囲は 20 ～ 80%Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。
- 必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行ってください。
- 注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行ってください。
- 作業は指示された手順で行ってください。
- 取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。
- 静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上等など）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。
- 必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け、取りはずし作業を行ってください。
- 作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。
内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。
- ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。
- 異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションまたは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- コネクタの接続、増設メモリの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。
ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



- 本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。
- 本体の電源コードの接続は、① AC アダプタへの接続、② プラグの電源コンセントへの接続の順に行ってください。電源からはずす場合は、① プラグ、② AC アダプタの順に行ってください。



注意

- ・この章で説明されている「6 本体カバーの取りはずし／取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体背面に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切りケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、本体の電源コードを抜いて1分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところがありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋の使用をおすすめします。



- ・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ + (プラス) ドライバ
- ・ - (マイナス) ドライバ
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。

設定について

- ⇒ 「7 章 BIOS セットアップについて」、『各オプションに付属の説明書』



注意 ・オプションの装着などを行う場合以外は、本体のカバーを開けないでください。故障の原因となる場合があります。

システムを拡張する場合、取り付け位置は本体内部であるため、本体カバーを取りはずすことが必要です。

先に本体カバーの取りはずしかた、取り付けかたをまとめて説明します。

それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

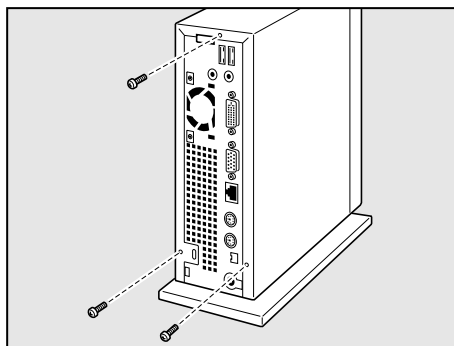
● 本体カバーの取りはずし

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、AC アダプタを取りはずし、本体背面に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

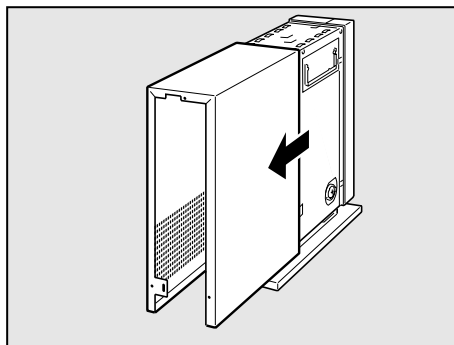


注意 ・電源を切っただけでは、メインボードは通電状態となっています。通電状態でメモリの増設等を行うと、故障の原因となります。
必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

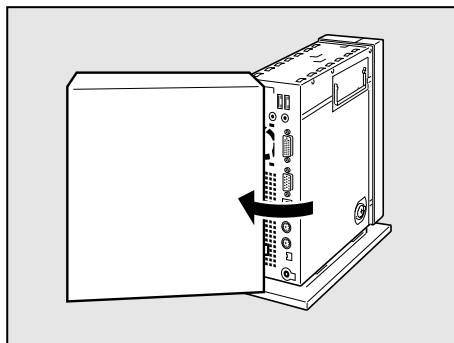
5 本体背面のネジ3本をはずす



6 本体カバーを後方へずらす



7 カバーの片側を手前に引くようにして取りはずす

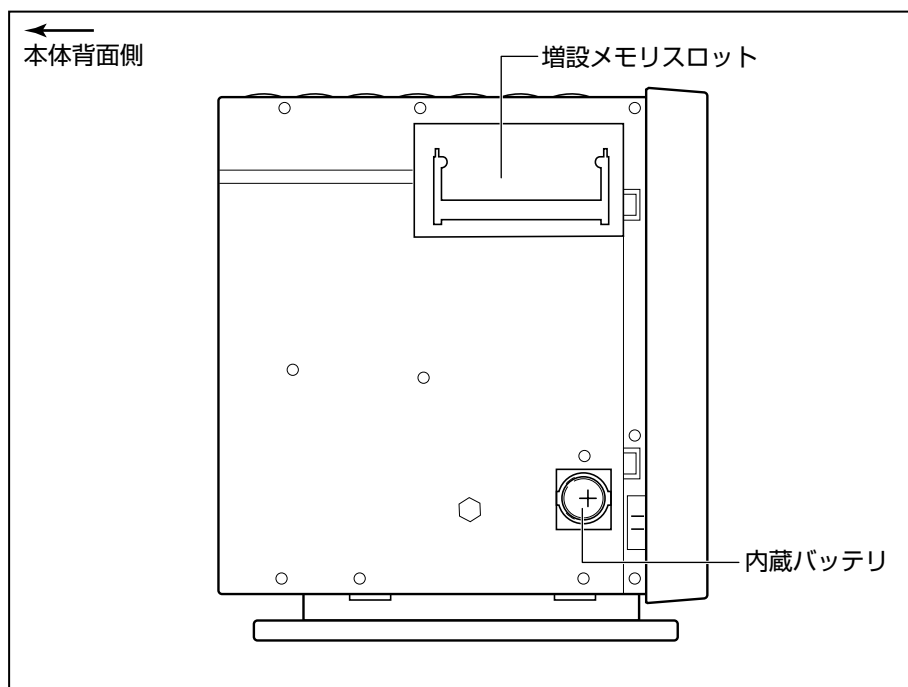


● 本体カバーを取りはずしたところ



注意 ・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。
高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。

● 左側面



増設メモリスロット、内蔵バッテリーがユーザ作業エリアです。

☞ メモリの増設について ⇨ 「本章 7 増設メモリ」

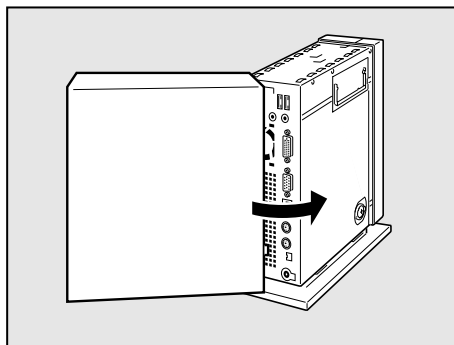
☞ 内蔵バッテリーの交換について ⇨ 「4章 2 内蔵バッテリーの交換」

● 右側面

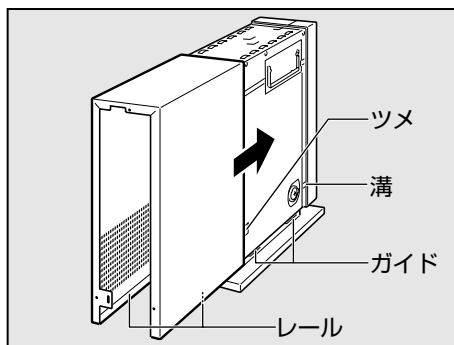
右側面はユーザ作業エリアではありません。

● 本体カバーの取り付け

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体の斜め後方から、本体カバーの片側をのせ、もう一方の側を回すようにして取り付ける

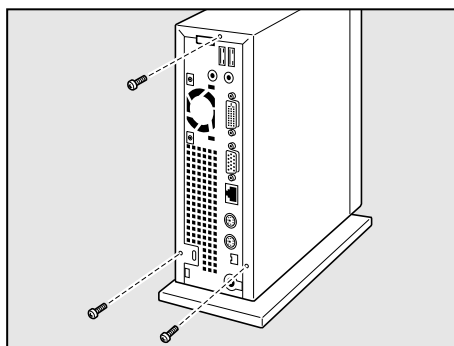


- 4 本体カバーを前方にスライドさせる
本体カバーの左右のレールを本体下部のガイドにのるように取り付けてください。
また、本体カバーの左右のツメを本体左右の溝に合わせてください。



⚠ 注意 ・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

- 5 本体背面にネジ3本を取り付け、固定する



7 増設メモリ



お願い

- ・必ず『増設メモリに付属の説明書』をお読みになったうえで作業を行ってください。
- ・使用できる増設メモリは1枚です。
- ・増設メモリの取り付けが難しいと思われる場合は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧ください。お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください（有償です）。

本装置は、増設メモリ（別売り）を取り付けることができます。
取り付け後の最大メモリ容量はご購入のモデルにより異なります。
次の増設メモリが取り付けられます。

- ・増設メモリ 128MB（タイプY） 型番：PAME128Y
- ・増設メモリ 256MB（タイプY） 型番：PAME256Y



注意

- ・メモリを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、システム起動時にブザーが鳴ります。また、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。



メモ

- ・ECC 機能はサポートしていません。

● 取り付け

増設メモリの取り付け方法について説明します。



注意

- ・増設メモリは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリを破壊する原因となります。増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、静電気を逃がしてから作業を行ってください。接地された手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

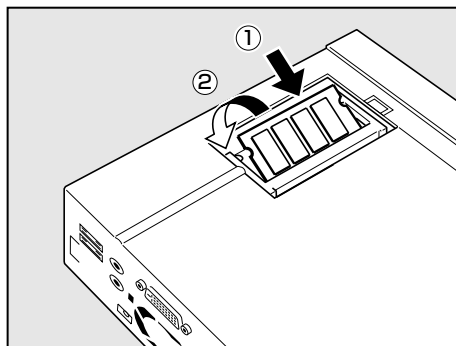
1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

3 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。



注意

- ・増設メモリの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリまたは増設メモリスロットを破損する原因になります。
- ・増設メモリが完全に挿入されていない状態で使用すると、異常動作したり、増設メモリまたは増設メモリスロットを破損する原因になります。

4 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

以上で増設メモリの取り付けは完了です。

増設したメモリが認識されているか、次の「メモリ容量の確認」で確認してください。

● メモリ容量の確認

Windows を起動し、「PC 診断ツール」を使用してメモリ容量の確認を行います。

- 1 [スタート] - [プログラム] - [東芝ユーティリティ] - [PC 診断ツール]
をクリックする
- 2 [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- 3 [メモリ] の数値を確認する

次のような場合、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう 1 度正しく増設メモリの取り付けを行ってください。

- ・電源が入らない
- ・システムが起動しない
- ・数値が合っていない

● 取りはずし

増設メモリの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。



注意 ・増設メモリは、静電気に変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱くと、増設メモリを破壊する原因となります。増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、静電気を逃がしてから作業を行ってください。接地された手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

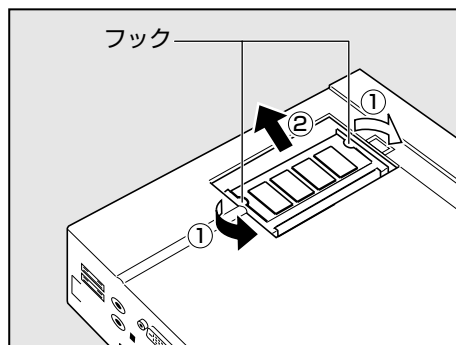
1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

3 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②

増設メモリを斜めに持ち上げて引き抜きます。



4 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

増設メモリを取りはずした後、メモリ容量が正しく認識されているか、本体を起動して確認してください。

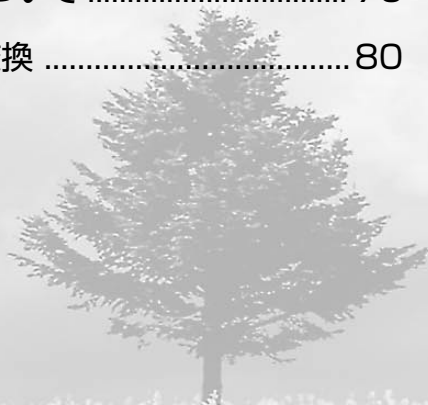
☞ メモリ容量を確認する ☞ 「本節 - メモリ容量の確認」

4

パソコンの取り扱い

日常のパソコンの取り扱いや消耗品について説明しています。

- 1 日常の取り扱いについて 76
- 2 内蔵バッテリーの交換 80

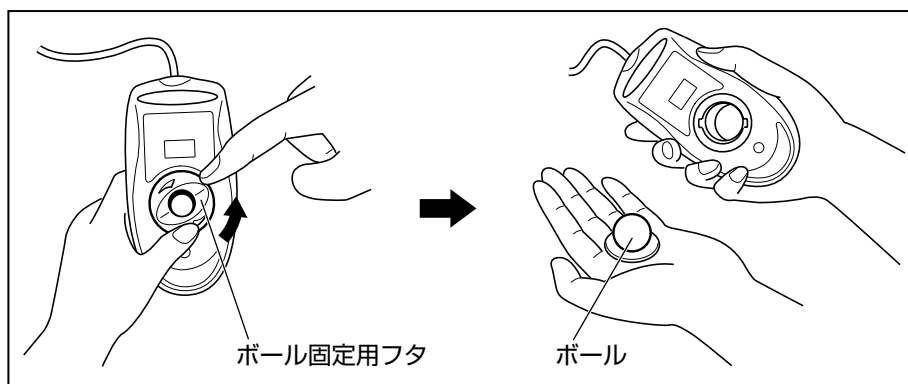


● 連続運転について

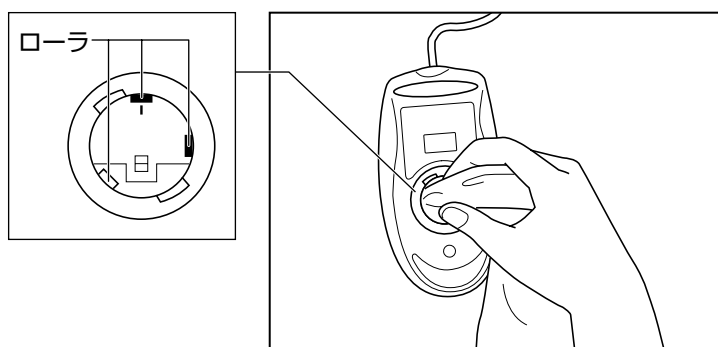
長時間の（24 時間を超えるような）連続運転をしないでください。
パソコン本体を使わないときは、パソコン本体の電源を必ず切ってください。
長時間使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。

● 日常のお手入れと保管・運搬

- 本体の汚れは、やわらかい布で拭き取ってください。汚れがひどい場合は、水を含ませた布で軽く拭き取ってください（ディスプレイ表示画面を除く）。
 - ベンジンやシンナー、その他の薬品類を使うと変形または変色することがあります。また殺虫剤などをかけないようにしてください。
 - 梱包箱を保管しておくで輸送などに使用でき便利です。
 - 移動時に落とす、ぶつけるなどの強いショックを与えないようにしてください。誤動作したり、故障することがあります。
 - CD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブは、市販のクリーナを使用しないでください。
 - 電源ケーブルのプラグを長期間 AC コンセントに接続したままにすると、プラグやコンセントにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。
 - キーボードのキーの下やすきまに入ったホコリやゴミなどは、掃除機などで吸い出してください。
 - マウスを長時間使用していると、ホコリなどがボールに付着し正常なマウスの動作を妨げ、動作不良の原因となることがあります。
マウスのお手入れは、次の手順で行ってください。
- ① パソコン本体の電源を切ってください。
 - ② マウス本体の裏面にあるボール固定用のフタを、矢印方向に回転させてはずし、ボールを取り出します（ネジは、絶対にはずさないでください）。



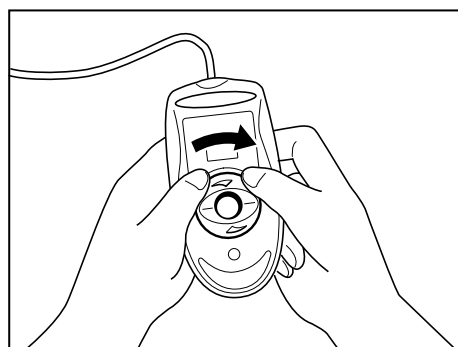
③ マウス内部のローラなどに付着した異物は、乾いた布で取り除いてください。



④ ボールを、水で洗います（中性洗剤を使用する場合はよくすすぎます）。

⑤ 乾いた布でボールの水分を拭き取り、十分乾燥させてからマウス本体に取り付けます。

⑥ ボール固定用のフタを、矢印方向に回転させて取り付けます。フタは、カチッと音がするまで回転させてください。



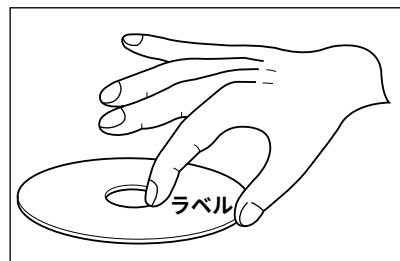
お願い

・ボール固定用のフタ以外は、絶対に分解しないでください。

● CD の取り扱い

CD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってお取り扱いください。

- CD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD を読み込むことができなくなります。
- CD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD の上に重いものを置かないでください。
- CD は専用のケースに入れ、保管してください。
- CD を持つときは、外側の溝か、中央の穴のところを持つようにしてください。表面に指紋をつけると、正確にデータが読み取れなくなることがあります。



- CD の表面に文字などを書かないでください。
 - CD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。もし乾燥した布で拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。
- ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。

● 妨害電波・電圧について

本装置は VCCI（情報処理装置等電波障害自主規制協議会）基準に適合している製品ですが、絶対に障害が発生しないということではありません。テレビ、ラジオへの影響がある場合は次のことを試みてください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える。
- テレビ、ラジオに対する本装置の方向を変える。
- テレビ、ラジオから離す。
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う。
- 受信機に屋外アンテナを使う。
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える。
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れてみる。

以上のような対策を行ってみてもまったく効果がない場合は、お近くのサービスステーションへご相談ください。

VCCI マークのついていない周辺機器を接続すると、テレビ、ラジオなどに影響が出ることがありますのでご注意ください。

● 修理・サービスについて

保証期間中および保証期間後の保守サービスについては、同梱の『保守サービスのご案内』をご覧ください。お近くのサービスステーションまたはお買いあげの販売店にご相談ください。

② 内蔵バッテリーの交換

このバッテリーは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリーを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。

通常の使用環境では、バッテリーの寿命は約 3 年です。

バッテリーが寿命に達すると、次のメッセージが表示されますので手順に従って交換を行ってください。

CMOS Battery LOW



- 注意**
- ・本装置の内蔵バッテリーには、リチウム電池が使われています。リチウム電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。
取り扱いを誤ると、発熱、破裂、発火、中毒、やけどなどの危険があります。
 - ・充電、電極除去、分解をしない
 - ・100℃以上の加熱、焼却をしない
 - ・電池は水にぬらさない
 - ・子供が飲み込んだりしないよう、十分注意する
 - ・電池の内部の液がもれたときは、液にふれない
- リチウム電池を廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。



お願い

- ・電池を取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、電池を交換した後で設定し直してください。
☞ 「7 章 BIOS セットアップについて」
- ・本装置に使用できる内蔵バッテリーは CR2032 リチウム電池です。交換の際は、市販の CR2032 リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。

バッテリーの交換は必ず次の手順に従ってください。

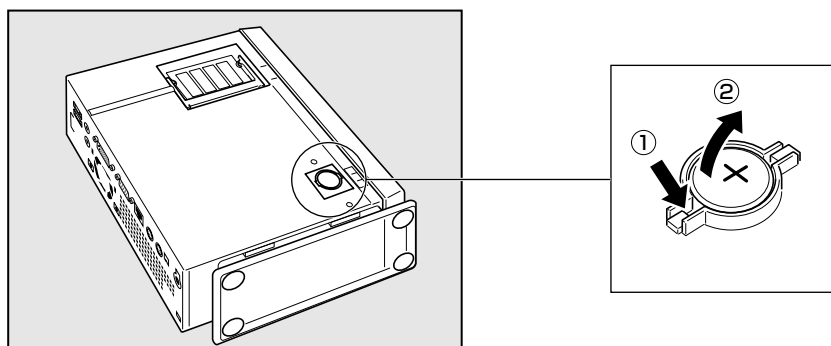
- 1 「3 章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する**
- 2 本体カバーを取りはずす**
☞ 「3 章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」
- 3 本体を静かに横にして置く**



- 注意**
- ・本体を転倒させないでください。
衝撃や振動により、本体が故障するおそれがあります。

4 バッテリーの位置を確認し、バッテリーとケースのすき間にマイナスドライバを差し込んで①、バッテリーを取りはずす②

バッテリーが本体内部に入り込まないように取りはずしてください。



5 新しいバッテリーの（+）側を上にして取り付ける

バッテリーが本体内部に入り込まないように取り付けてください。



お願い

- ・バッテリーの極性（+、-）をまちがわないように取り付けてください。
+側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

6 本体カバーを取り付ける

☞ 「3章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」



お願い

- ・再起動後、BIOS セットアップを起動し、再設定してください。
☞ BIOS セットアップについて ⇨ 「7章 BIOS セットアップについて」

